

～2020年、東京はようになる？～

ハッ場ダムとオリンピック

日時：2014年2月23日(日) 13:30～16:30(開場 13:00)

会場：豊島区立勤労福祉会館 6階

(JR池袋駅西口徒歩10分) 電話番号 03-3980-3131

参加費：500円

登壇者：松久 寛 (縮小社会研究会代表理事・京都大学名誉教授)

森 まゆみ(作家) 司波寛(都市計画コンサルタント)ほか

プログラム：

基調講演 松久 寛

「小さいことはいいことだ

～縮小社会への道」

- ・東京の水道とハッ場ダム
- ・新国立競技場の問題とは
- ・パネルディスカッション「2020年、東京はようになる？」

ハッ場ダムは首都・東京の水道事業と密接なつながりがあります。

1964年の東京オリンピック当時、ハッ場ダム事業は“東京砂漠”という言葉に象徴される水不足を解決するとの名目で、大きく動き出しました。

時代が変わり、東京水道の水需要は減少の一途を辿るようになりましたが、安倍政権はあれから半世紀を経た2014年秋、ハッ場ダムの本体工事に着手し、2020年3月の完成をめざすとしています。

2020年—それは、東京で二度目のオリンピックが開催される年でもあります。東京では巨大な新国立競技場の建設をはじめ、新たな都市開発の計画が目白押しです。

最初のオリンピックが開催された1960年代、「大きいことはいいことだ」というCMソングが流行しました。ハッ場ダムも新国立競技場も、この価値観の延長上にあるといえます。

果たして、この先に未来はあるのか、識者をまじえて徹底討論します。

・主な登壇者のプロフィール・

✧ 松久 寛 (まつひさ ひろし)

1947年大阪生まれ。京都大学名誉教授。工学博士。京都大学では振動工学の研究に従事。2008年、縮小社会研究会を設立。

2012年、『縮小社会への道-原発も経済成長もいらない幸福な社会を目指して-』（日刊工業新聞社）を刊行。

✧ 森まゆみ

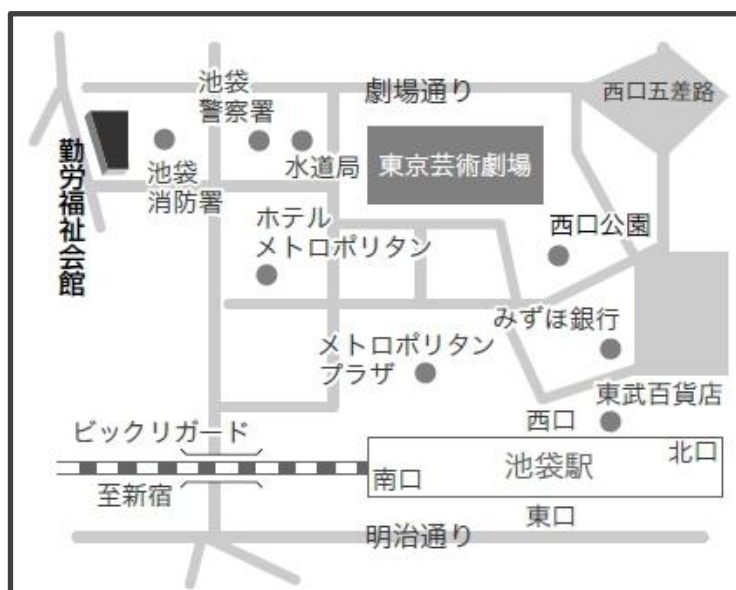
1954年東京生まれ。地域雑誌『谷中・根津・千駄木』編集と並行して、作家活動開始。『鷗外の坂』、『「即興詩人」のイタリア』、『東京遺産 保存から再生・活用へ』、『震災日録 記憶を記録する』など著書多数。

✧ 司波 寛 (しば ゆたか)

1937年東京生まれ。東京大学大学院都市工学修士課程修了。著書に『都市・農村の新しい土地利用戦略』、『美しい街をつくる』（ともに共著）、「まちづくり政策実現ガイド」（共編著）など。



豊島区立勤労福祉会館 電話番号 03-3980-3131



総会

11:00~11:30

集会終了後、懇親会を開きます。（参加費 3,000 円予定）
参加ご希望の方は下記事務局までご連絡ください。

主催：ハッ場あしたの会

◎群馬事務局

〒371-0844 群馬県前橋市古市町 419-23 Te1027-253-6706 携帯 090-4612-7073

◎東京事務局

〒187-0002 東京都小平市花小金井 5-55-14 Fax0424-67-2951